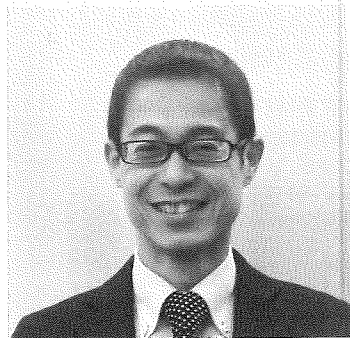
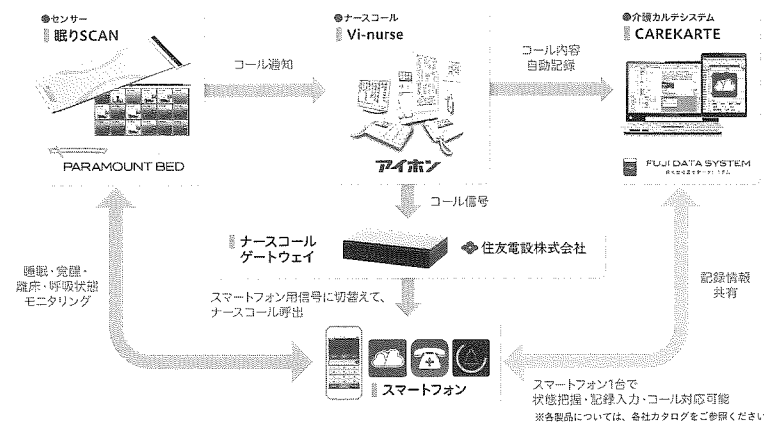


図表 「EGAO link」の仕組み



事業推進部ゼネラルマネージャー兼入居相談室長の浅見泰之さん



シニアホーム運営部運営統括グループ介護IT推進チームチームリーダーの小野大介さん(左)と、同チームの土田郁美さん

「EGAO link」は、異なるメーカーの機器同士を連携させるだけでなく、使いやすさも追求している。「PHS対応の機器もあれば、スマホで操作する機器もありました。複数の機器を持つのはスタッフのストレスの原因にもなりますので、スマホ1台でするように、各社には仕様の調整に努力していただきました」と、シニアホーム運営部運営統括グループ介護IT推進チームチームリーダーの小野大介さんは語る。



経営企画部人材開発グループの田邊有沙さん(左)と同グループの今井利佳さん

このような使いやすさも相まって、前述のような効果が出ています。とはいえ、導入開始前は、ベテランスタッフを中心にITへのアレルギー反応もあった。しかし、「便利!」という若手スタッフの声や、3週間程度で使いこなせるようになることなどから、ベテランスタッフも徐々に使用するようになったという。なお、導入時には小野さんや土田さんが各ホームを訪問し、使用方法を教えている。二人とも現場経験があり状況に応じた対策を提示できるため、スタッフが気後れせずに使用方法を相談できることも、スムーズな導入につながっているようだ。

また、「EGAO link」の導入は新卒採用にも好影響を与えている。介護というと肉体労働でつらい、というイメージをもたれがちだが、「介護の現場にIT導入を進めると聞くと、好感を抱く学生が多い」と、経営企画部人材開発グループの田邊有沙さんは話す。「今年4月には、約70人の新卒社員を迎える予定です」と、同グループの今井利佳さんも続ける。

同社は他社にも「EGAO link」の導入を進めており、現在、導入ホームの見学会も行っている。「業界全体としてIT化を進め業務を効率化していく必要があります。介護の悪いイメージを払拭して、介護はカッコイイという認識に変えていきたいです」と浅見室長は意欲をみせる。

法人概要

株式会社アズパートナーズ
 〒100-0006
 東京都千代田区有楽町1-5-2
 東宝ツインタワービル6階
 TEL: 03-5501-1881
 URL: <https://www.as-partners.co.jp/>

結果が出る ICT 導入の道 第2回

株式会社アズパートナーズ(東京都千代田区)

スマホ1台で記録・コール・見守りが可能に

各社が開発して各種機器を現場目線で連結させる

介護付きホーム「アズハイム」シリーズを展開する株式会社アズパートナーズ。ICT活用による生産性向上と効率化を図るシステム「EGAO link」の導入・活用で、スマートフォン1台で記録・コール・見守りのすべてを可能にしている。

こうしたテクノロジーの導入の背景には、同社が以前から入居者へのケアと、掃除やリネン交換などの作業の分業化を実施し、パートタイマーを活用するなど、ケアスタッフの働き方改革を進めていたことがある。しかし、それらの取り組みでも、記録・定時巡視・ナースコール対応部分に関しては、ケアスタッフの負担軽減・効率化ができなかった。そこで、同社は記録の電子化に着手。その後、ナースコールや定時巡視などに対応できる各種機器を連携させるシステム「EGAO link」をつくり上げたのだ。

これは、株式会社富士データシ

業務の見える化

人材採用・育成

ICT活用

ステム、パラマウントベッド株式会社、アイホン株式会社、住友電設株式会社の各社が開発した機器同士を、介護の現場目線で使いやすいかたちで連携させるというもの(図表)。「お客様のためにいいものをつくらうという思いと、各社の事業のベクトルを合わせるのがひと苦労でした」と、事業推進部ゼネラルマネージャー兼入居相談室室長の浅見泰之さんは明かす。各社とテストを重ね、2017年3月にリリースした。たとえば記録業務の場合、日報、報告書などの書類の重複した情報については、1カ所に入力することですべて反映されるようになっていく。また、後から記入するのではなく、その場で入力するようになったので、正確な介護記録を残すことが可能になったという効果もある。「申し送り事項も、その場で入力すれば確実に伝わるので、ミスがなくなります」と、シニアホーム運営部運営統括グループ介護IT推進チームの土田郁美さんは強調する。

「EGAO link」の導入後、60床の介護付きホームでは24時間あたり正社員2人分、業務時間になると17時間の削減に成功している。特に夜勤時間帯では、1人あたりの実働時間がケアは約40%、記録は約75%減少。仮眠の時間もすっかりとれるようになり、スタッフの負担軽減につながっている。また、見守りセンサーを使うことで、夜間定時巡視の回数をゼロにした。巡視時に寝ている入居者を起こすこともなくなり、入居者の生活リズムも改善した。さらに、導入によって削減された時間を使い、生活リハビリやアクティビティに費やす時間が増加した。入



スマホ1台で記録・定時巡視・ナースコールなどの状況把握、対応が可能に